



【自殺、昨年3万人超

十三年連続

警察庁が七日まとめた自殺統計の速報値で、昨年の自殺者は三万一千五百六十人となり、(乃至)

民主党政権は二〇〇九年秋の発足から「命を大切にす政治」を掲げ、自殺リスクのある人への支援策を打ち出してきた。

(乃至)不況の長期化などもあり、減少傾向に転じたとは言え切れず、異常な状況は続いている。」(一月八日 中日新聞)

○人命は地球より重い。

なぜそう言われる?

近年、業務による心理的負荷が原因で自殺したとして労災認定が行われ

る事案が増加し、社会的に関心を集めています。このような状況下で、厚

生命の重み

生労働省では「労働者の心の健康の保持増進のための指針」(メンタルヘルズ指針)に基づき、職場のメンタルヘルズ対策を推進しています。

実際、どのように取り組めば良いか分からないという事業場には、厚生労働省の委託で「事業場の心の健康づくりアドバイザー」も行っていきます。

それでも、日本の年間自殺者は3万人を超えて

おり、労働災害で亡くなる方よりはるかに多くの労働者が自ら命を絶っている現状です。

平成十年の急増は、男性の平均寿命を下げるほどの、異常事態となりました。長引く平成不況が原因と、早計にはいえな

いでしょう。フランスの社会学者デュルケムは、富豪ほど自殺率が高いことなどから、経済的に豊かな人ほど深

刻な苦悩にさいなまれて

いることを、各種の統計で裏付けています。

米国の著名な心理学者

「生きる目的」が分からないから、どれだけ利便や娯楽に囲まれても心からの充実は得られないのだ、と説明しました。

「そんなにまでして、なぜ生きているのか」人生の根底に無知であれば、ひとは死を選んででも決しておかしくないでしょう。

一億円の宝くじの当選券を大事にするのは、一生働いても得られぬ価値があると思うからです。

ハズレくじなら、ゴミ箱へ直行でしょう。割れたコップや修理のきかないパソコンなどと同様に、価値のない物は捨てられます。

自分の生命が地球よりも重いと知れば、「ハズレくじ」を捨てるように、ビルからの投身も、他人の命を中けらのように奪うことも、できるはずがありません。

「人生には、なさねば

ならない目的がある。どんなに苦しくても、生き抜かなくては」と、生きる目的が鮮明になってこそ、生命の尊厳が知らされるのです。

子供の相次ぐ自殺やエスカレートする殺人に、世の中は騒然としています。家庭の問題だ、教育の欠陥だ、少年法が悪い、病んでいる社会……解説は十人十色です。

しかし「苦しくとも、生きねばならない理由は何か」、肝心の「人生の目的」が抜け落ちた議論がつづくだけでは、対策も立てようがないでしょう。

本心に尊い命と知らされることを願っています。

名古屋北労働基準監督署の ダイヤルインご案内

監督係(方面)

052-961-8653

安全衛生係(安全衛生課)

052-961-8654